

第22回「ハートミーティング」意見交換の内容について Sustainable (サステナブル) カフェ

★参加メンバーからの主な声

【SCafeの活動から得たもの・課題】

- このグループでは、いろいろな職種の人から話を聞く事ができ、実際の仕事に役立っている。メンバーの人間関係の形成により視野、視点、人間関係が広がった。
- 最近は、主要メンバーの業務多忙化や家庭環境の変化による出席者数の低迷、世代交代がスムーズに進んでいないことなど、いくつかの問題に直面している。
- 自分たちは専門的な仕事には強いが情報発信力が弱いと思う。発信力のある本庁部門などに、きちんと情報を繋げていくことが大事だと思う。
- 今後の活動展開として、自主研修の支援についての提案や、様々な研修機関の活動への参加を計画している。自主研修活動を行う者の立場から、自主研修に対する支援制度や研修に使用する場所の確保の問題など、研修活動の今後のあり方について考えている。このほか、参加メンバーの中に専門職が多いため、組織的な専門職育成の仕組みや、専門職と事務職の意識の距離を縮める取組などについても話し合ったことがある。



【自分の専門性を活かすために考えていること】

- 研究機関に勤務していると、普段は専門的な仕事をしていて他の人の仕事を知ることがない。突発的な事態が起きたときに応援できるよう、普段から自分の職種として担当する可能性がある仕事は勉強している。
- 水道の検査機関は、業務マニュアルの整備がしっかりできているが、他の職場や職種はどうか。専門職の場合、人事異動のサイクルが最長10年。長くいると専門性を高める事ができるが、視野が狭くなる弊害がある。短いと専門性が高まらない。どちらが良いのか悩ましい。また、技術職員の視点からの人事も必要だと思う。

- 嵯峨野にある広沢池の風景は、都市計画課が、あの場所を歴史的風土保全地区に設定したことで美しさが残っている。このように農地と一体となった景観を守ることだけでも、他の業務と一体とならないと実現できないことが多い。専門職の人間が、自分の領域外の分野に出て働ける仕組みを作ってほしい。


- 人事異動の内示から発令日までの期間が短いため、業務の引継ぎに十分な時間を取れない。異動後は自分が新しい仕事を覚えるのに忙しく後任の指導が非常に難しいので、異動の時期も含め、もう少し柔軟な仕組みすることはできないだろうか。

【その他】

- 自分のまわりにも優秀な人材がたくさん居るにもかかわらず、京都市財政は大きな赤字を抱えているのは大きな疑問である。京都市の財政問題について、S C a f eでも取り上げたい。



★市長からのコメント

- 局を横断して素晴らしい取組をしてきている。こういう取組が力強く広がっていることがうれしい。仲間、組み合わせ、多様性など一人ひとりが認め合い、関わり合い、違う考えが価値観も含めて議論する中で、それぞれが生かされていく関係性が一番大事だと思います。環境問題に対しては、もっと大胆に危機感、使命感を共有し、常に情報を共有し、行動を共有するべきだと思います。
- 
- 市役所に勤めていて、これだけいろいろな職種の人と知り合えることはあまりない。職種や職場ごとの活動はあっても、これほど多職種が集まっている研修グループは他にないのでおもしろい。
 - 短い言葉で端的にアピールできており、プレゼン能力が高いことに感心した。自然発生的な自主研究グループが続くというのは凄いこと。参加人数が少なくても続けることが大事。
 - 京都市の仕事はとても幅広く、それぞれが高い専門性を発揮している。年末年始だけでも緊急融資、中央斎場、大晦日のゴミ回収、地下鉄、防災指令センターなど市職員が都市機能から市民生活までをしっかりと支えている。
 - 以前、河合隼雄先生が「家政学」について、「衣・食・住」の研究は非常に進歩したが、それらが繋がる「家族」について語れる人がいなくなったと講演されていた。私たちも個々の専門性を大事にしながら、京都市という繋がりを作っていければよいと思う。
 - 以前、一定年数を経過したら必ず異動させるというルールで人事の活性化を図ったが、今度は必要などころに必要な人が配置できないという問題が出てきた。制度にはプラス面とマイナス面があるので、柔軟にやればよいと思う。専門職の人材育成の問題は良い課題提起である。
 - 次期京都市基本計画の中に盛り込まれた6つの京都の未来像の1つに「真のワ

ーク・ライフ・バランス」がある。これは仕事，家庭，地域貢献・社会貢献のバランスのことだが，人間の属性は「家庭人」，「職業人」，「地域人」の3つあり，これら3つがバランス良く充実したら世の中が良くなる。例えば，小学校の先生方は勤めている小学校という属性と，研究会に所属している属性を持っている。市役所でもこのように自分の担当業務と専門性といったように職員が多面的な属性を持つことができれば面白いのではないか。SCafeは，まさしく，そういうことをしているのではないかと思う。

- 仕事としての研修も大事だが，自発的に創造力を活かして行く活動は大事である。SCafeの活動はこれからも発展して行ってほしい。外部からの講師依頼も考えているようだが，市役所には優秀な人材がたくさんいるので活用して欲しい。

- 続けていくことにより，大きな変換点が訪れ発展することがある。だから，続けることが大切であり，引き続き頑張りたい。

- 私も講師になるので，ぜひ一度，例会に呼んでほしい。

